

Welfare [ウェルフェア]

2017年度社会福祉助成事業 助成先決定!

2017

61

CONTENTS

P2 くっきり! 福祉の未来形 ~日社済助成事業成果報告~

青少年更生保護ネットワーク研修会「居場所と出番を」
~職親チャレンジプロジェクト~
社会福祉法人 岐阜羽島ボランティア協会

西播磨認知症ケア実践研修
特定非営利活動法人 播磨認知症サポート

P6 空飛ぶ車いす「タイの人々とともに」~2016活動記~

神奈川工科大学KWR+新潟医療福祉大学FWS

P12 社会福祉助成事業・アジア福祉助成事業

2017年度社会福祉助成金交付団体一覧 ほか

P14 「書き損じはがき」収集ご協力をお願い

P15 福祉の共済コーナー

● 助成事業成果報告

青少年更生保護ネットワーク研修会「居場所と出番を」

～職親チャレンジ・プロジェクト～

社会福祉法人岐阜羽島ボランティア協会

理事長 川合 宗次

一、はじめに

当法人は、平成26年11月社会福祉法人に認可され、障害福祉・児童福祉・子育て支援の主な事業をNPO法人から社会福祉法人に移管しました。当法人では、平成28年度においても、障害があるなしにかかわらず行き場のない社会的養護を必要とする子どもを中心とした支援事業を重点事業としており、特に児童養護施設や少年院、児童自立支援施設などの出所児童の受け入れを進めるに当たり、就労及び居住支援を重点的に実施しています。

二、助成事業概要

実施目的・社会的養護を必要とする特に高年齢の少年の「居場所と出番」の必要性を関係機関が確認することにより、何度でもやり直せる社会を創っていくため、青少年の立ち直り支援の関係機関のネットワークを創るきっかけとします。
実施年月・平成28年5月15日(日)



自立援助ホームOhanaの家 ホーム長 味岡 和子氏

場所・羽島市民会館 大会議室
参加者・125人(司法14人、福祉84人、行政10人、報道9人、企業その他8人)
（1）基調報告 社会的養護の現状と課題～居場所と出番を～
講師 Ohana統括管理者 味岡和子氏
内容 Ohanaは、自立援助ホームOhanaの家、共同生活援助「GH健康促進住宅」、児童福祉施

設退所者等アフターケア「Lalaの部屋」を管理運営しています。特に行き場のない少年の生活の再構築は、厳しい現状があり、自立していくための働く場所やアパート設定、身元保証など頼るところがない子どもにとって相談できる大人が必要です。
（2）基調講演 子どもたちの居場所づくりに関わって～元総長のふれ愛義塾～
講師 更生保護施設田川ふれ愛義塾

理事長 工藤 良氏
内容 犯罪や非行により刑務所や少年院が社会に戻るとき、頼るべき親族などや帰る場所がない人たちを保護し支援し、その再出発を支える施設「更生保護施設」は全国に103か所あります。しかし少年を受け入れる施設は数少なく、さらにNPO法人は一か所だけです。自立準備ホームと併せて運営している同法人の理事長は、過去、暴走族の総長であり、最後には20歳から始めた覚醒剤により22歳に逮捕となりました。しかし、当事者としての同じ罪を背負った少年の生活や就労への立ち直り支援に対する熱き思いが伝わりました。



特定非営利活動法人TFG更生保護施設 田川ふれ愛義塾
理事長 工藤 良氏

三、事業の成果

基調報告の味岡和子氏からの報告では、全国の自立援助ホームは130か所ほどあり、毎年20か所ずつ増えてきている。一方職員の配置数の少なさや暫定定員による措置費の減額により、施設の維持が困難になり廃業するホームも増加の一途をたどっている現実があります。また全国的に少年院や家庭裁判所補導委託を受け入れるホームは少なく、彼らの行き場がないのが現状です。また、ホームは15歳から入居できますが、就労する場合や携帯電話を持つときの保証人の問題など少年の自立への課題が多くあることが分かりました。一方で最初は荒れていても、初めて向き合う大人の影響で一步一步着実に自分を変えていき、自立への道のりをたどっていく姿が分かりました。今まで誰も係わりがなかった大人、誰も自分に向けてくれなかった日々、孤独でさびしくつ

て、どうしようもなかった日々、非行に走るしかなかったようです。親が養育できなくなったとき、しなくなつたとき社会でどう状況をキャッチするのか、どう支援していくのか、その仕組みを創ることが大きな課題となつていくことがわかりました。

基調講演の工藤良氏からの講演では、工藤氏の生い立ちから家族の係わり、非行へ走るようす、そして逮捕。しかし、刑務所での自責の念が180度人生を変え、今日に至つたことなどが語られました。元暴走族がボランティア活動をするということが社会で受け入れられたこと自体、福岡ならではないのかなと思います。グループの名前も「GOKURENKAI」だれも最初は寄り付かなかったのかなと思います。しかし、一つ一つの行動が本物であることが地域で受け入れられ、さらに地域が彼らを頼るようになった様子がとてもうれしくなりました。社会的養護の子どもも同じように頼れる大人の存在、いつも何かしら気にかけてくれる近所の人たち、彼らを孤独にさせる社会であつてはならないと思ひました。また、立ち直り支援では、福岡県の立ち直りを支援する企業の多さに驚かされました。岐阜県での協力雇用主の登録は200社余りですが、福岡では3000社で日本一だそうです。ちなみに2位は東京都です。(当たり前だと思いますが) 見守る地域の人々たちの援助や協力が本当に必要であることをあらためて確認しました。

共通して言えることは、子どもたちの心の叫びを受け止める社会、聞くだけでなく現実に繋げていくこと、子どもが気づくまで根気よく、支援することの大切さではないかと思ひました。

四、成果の広報・公表

この研修会の目的は、社会的養護が必要な子どもの自立への支援の内、その受け入れとともに地域へどうつないでいくかがポイントになります。そして就労支援は重要なポイントの一つです。当法人広報紙で取り上げられることはもちろんですが、昨今、生活困窮者自立支援法の研修会や学習会が多く開催されている状況であり、そのような同類の研修会で事例発表等を行っていきます。

五、今後の課題

商工会議所や保護観察所協力雇用主会、岐阜県就労支援事業者機構等を通じて、職親への理解を進め、企業開拓を行うとともに、社会的養護関係の会議・研修会等において、この研修会で学んだことを主催者、参加者ともより多くの人々に周知していきます。今後商工会議所等の広報紙に職親調査・職場実習等の依頼を行い企業開拓を進めていきます。また、従来より連携している家庭裁判所や保護観察所、少年鑑別所、児童相談所等に加え、企業へのコーディネートを図っていきます。

● 助成事業成果報告

西播磨認知症ケア実践研修

特定非営利活動法人播磨認知症サポート

代表 丸尾 とし子

一、はじめに

当法人は、認知症など人生の途中で脳に機能障害を持つようになった方が、絶望を乗り越え、希望と尊厳をもち、安心してよりよく暮らしていける環境を創り出していくことを目的とし、「本人の生きがいを支援」「セラピスト等による進行予防プログラムの提供」「本人を支える人材の育成」「認知症にやさしいまちづくり」に関する事業を行っています。

特に、介護保険を利用するほど進行していない認知症の初期段階にある方々の支援に力を入れ、社会参加や就労に関する課題の解決に取り組んでいます。

二、助成事業概要

1 実施目的

本事業は、都市部を中心に行われる認知症ケアの研修に参加する機会の少ない、西播磨在住・在勤で、経験の浅い介護職員に研修を提供することで、その職員らが「認知症」を深く理解し、認知症を有する利用者への実践的なケアの方法を学び、介護現場の

認知症ケアの質ならびに職業意識を向上させていくことを目的としています。

2 実施時期と内容

○6月26日(日)

「認知症」の理解とアセスメント

講師・重森健太氏（関西福祉科学大学学長補佐）

認知症の方に提供するレクリエーション

講師・尾渡順子氏（社会福祉法人興寿会教育実践

研修センター所長代理）

○8月7日(日)

認知症の方の心理を探る

講師・NPO法人播磨認知症サポート

○9月3日(土)

全職種で取り組む認知症アプローチ

講師・田中義行氏（株式会社大起エンゼルヘルプ

理学療法士）

○11月～12月

報告書作成・参加者および介護事業所等へ送付

三、事業の成果

(1) 「認知症」の理解

経験の浅い職員は、ヘルパー研修等の座学で認知症に関する基礎的な知識を学んだ後に、デイサービスや特別養護老人ホームなどの介護事業所に就職し、認知症を有する利用者のケアの実践を行うようになりませんが、知識が不十分であったり、知識があってもそれをうまく実践に生かすことができなかつたりしています。

「認知症」に関する基本的な知識を再確認することで、「忘れていたことを思い出した」「実際のケアへの生かし方が分かった」等の感想を得ることができました。

また、近年の

新しい研究結果と認知症の進行予防の方法について学ぶことができ、現場のケアにそれをどう反映させるかを考える機会になりました。



重森氏による講義の様子

(2) 「認知症ケア」の理解

尾渡順子氏のレクリエーションでは、レクリエーションが、利用者を単に楽しませるための「遊び」ではなく、身体機能の向上や脳の活性化を促す活動であることを知り、それをどのように提供するかを複数のレクリエーションを通じ、実際に体験しながら学ぶことができました。



尾渡氏によるレクリエーション

それまでは、日々のスケジュールの中で、レクリエーションの意義を知らず、進行役に苦手意識をもちながら行うことが多かったが、明日からの実践してみたという意欲的な感想が見られました。

また、田中義行氏の講義では、理学療法士の視点から、認知症を有する利用者に対して、どのようなアプローチが適切であるか、またそれを全職種がいかに共有していくことが、利用者へのより良いケアにつながるかというチームケアの在り方について学ぶことができました。

(3) 事業所を超えた関係づくり

1日だけの研修ではなく、同じ顔触れで複数回



田中講師による講義の様子

行う研修だったこと、講義だけではなく、ワークショップを取り入れたことで、参加者同士が顔なじみになり、他事業所の取り組みや介護職としての悩みなど情報交換ができ、1つの事業所に勤務する「自分」ではなく、介護を職業とする専門職である「自分」といった意識が芽生えさせることができました。

(4) 自己研鑽への意欲向上

介護の研修で、受講証明書を発行する研修はあまりありませんが、仕事のない日に研修に参加し、自己研鑽を積んだことを讃え、また本人のキャリアアップにつながるようにと受講証明書を発行しましたが、次回の研修にも参加したいと全受講者が連絡先を残したことから、学びが実践と連動し、より良いケアにつながることを感じてもらえたものと思います。

四、成果の広報・公表

1回の研修ごとにFacebookを通じて、会場の雰囲気やその日のテーマなどを配信しました。また、研修の内容と成果については報告書をまとめ、参加者や関係機関に配布しました。今回の研修に参加できなかった事業所や介護職員に情報を共有し、より良い認知症ケアについて関心を高めていただきたいと同時に、都市部に劣らない内容の研修が、地元西播磨でも受講できることを知っていただきたいと思っています。

報告書については、当法人のホームページやFacebook等でも紹介し、希望者に提供できるように努める予定です。

五、今後の課題

今年度は、第1回目ということで、「認知症」の概念的な内容のものを企画しましたが、3回の連続研修であったことや、講義とワークショップという形式が受講者にとっていいことが分かり、2回目以降も同様の形式で開催したいと思っています。

経験の浅い介護職員は、「認知症」の理解も不十分であり、経験が浅いがゆえに、認知症のある利用者へのケアにも自信を持てずにいるので、続けて第2回、第3回と実践を意識した認知症ケアの研修を企画し、介護職員の質向上、意識向上につなげていきたい。

「認知症ケア」は、認知症を有する方に対する衣食住すべてに関わることでテーマも多様であるので、年度ごとにテーマを定め、そのテーマを専門とする講師を厳選し研修を行うと同時に、認知症の基礎を学ぶ講座も繰り返し行っていききたいと思えます。

空飛ぶ車いす「タイの人々とともに」2016 活動記

大反省 7割が整備不良

神奈川工科大学 KWR + 新潟医療福祉大学 FWS

99年に始まった空飛ぶ車いす。世界27ヶ国の8千人以上に贈った。これまで訪ねたアジア7か国では、車いす製造は少なく、高価で入手困難。それに未舗装道路、家屋の段差など車いす普及を妨げる要因が実に多い。この解決は一朝一夕にはいかない。空飛ぶ車いすはこの現実を知ることから始まる。



16年8月30日から9月4日まで神奈川工科大学KWRと新潟医療福祉大学FWSは、タイ東北部サコンナコン県で車いすの修理を行った。地元サコンナコン工業高校とカセサー

ト大学も参加し、サコンナコン病院に196台を寄贈。同病院訪問は15年に続き2回目、KWRとFWSが合同でタイ、スリランカ、韓国で活動するのは今年で7年目となる。

日本と近いサコンナコン

サコンナコン工業高校は、昨年、栃木で開催されたエコカーレースに参戦。贈呈式の司会兼通訳は病院スタッフ、看護師幹部は国際医療センター（東京・新宿）の研修生。産婦人科医は、日本旅行の思い出を30分も話し、看護師長と演歌をデュエット。昨年訪問したお宅の娘さんも、東京で働いていた。サコンナコンがこんなに日本と関係が深いことに驚いた。空飛ぶ車いすに貼った「ドラえもん」シールも大人気だった。



ドラえもん大好きパリラのお姉さん

「空飛ぶ車いす」青少年の活動レポート

活動日程 (3泊6日弾丸tour)

◆8月30日

21時羽田空港集合



◆8月31日

深夜羽田を離陸したTG661便は早朝バンコク着。国内線に乗継ぎ11時サコンナコン着。

歓迎セレモニー後、209台を点検、うち147台が要修理。

初日は104台完了。

18時、病院主催歓迎パーティで盛り上がる。



■参加メンバー

神奈川工科大学KWR

梅原直人、羽賀大樹、坂本一樹、武藤英里、吉村郁美、山口榛奈、後藤佳宏

新潟医療福祉大学FWS

塚本純平、山川亮輔、石畑大輔、竹田翔平、内藤美穂、大川可奈絵、笹川愛



◆9月1日

9時から30台修理。13台廃棄。

午後は5軒の家庭訪問。夕食は地元高校生、大学生とサヨナラパーティ。



◆9月2日

9時、9人に適合実施。10時から贈呈式。式後、遠方から来た10団体のトラックに50台を積み込み、合計209台の寄贈完了。午後便でバンコクへ。夕食はチャオプラヤクルーズで夜景とタイ料理を堪能。



タイムメンバーとは共同作業の連帯感とスマホを駆使するなど言葉の壁は感じない盛り上がった2日間だった

◆9月3日

午前中、水上マーケット観光。午後はショッピング。空港へ向かう途中バスがエンジントラブル。バスを乗換えて無事空港着。23時の深夜便で帰国の途に。機内爆睡。

◆9月4日

朝8時成田空港着。空港内で反省会後、解散。

ボランティア20年

今年も通訳、移動、宿泊の手配は、サハタイ財団のサイワルーンさん、スパワディさん、パニーさんが全て行ってくれた。そして2日の夕食には、空飛ぶ車いすを立ち上げたシリマさん、スパーバさん、ソムチャイさん、パニーさん、マリーさん、ソムラックさん、ラッチャイさんが顔を出してくれた(写真右から)。彼女らは全国社会福祉協議会のアジア研修プログラムの参加者で、この活動を20年間支え続ける大功労者。



■車いす提供高校

いわて車いすフレンズ(岩手県社協)、秋田車いすリサイクリング(秋田県社協)、栃木工業高校、清陵情報高校(福島県)、世田谷泉高校、北豊島工業高校、大森学園高校(東京都)新潟工業高校、新津工業高校(新潟県)、島田工業高校、掛川工業高校(静岡県)、科学技術高校、東播工業高校、相生産業高校(兵庫県)、倉吉総合産業高校(鳥取県)、新居浜工業高校(愛媛県)、浮羽工業高校(福岡県)



8月31日 点検・修理

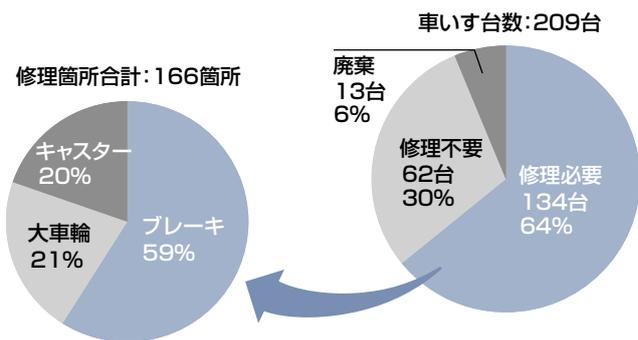
地元11人の活躍で、134台修理

羽田国際空港を深夜便で出国し、12時間後には209台の点検開始。結果はなんと7割の147台に不具合が判明。※内訳図表参照

一瞬、贈呈に間に合うか不安がよぎったが、行動あるのみ。

まず不具合箇所毎に、キャスターは赤、車輪は青、ブレーキは緑のカードを輪ゴムで吊るした。

2016年の修理内容



この色分けで修理箇所数が一目瞭然。

修理時間を推計し、作業は効率最優先で修理箇所毎の専門チームを編成。タイ人とペアの即席チームだが、高校生3人は昨年も参加、初参加の大学生は工業専攻で技術は高く、チームワークは良好。31日午後と1日午前で134台の整備が完了したときは嬉しかった。しかし修理不能で13台の廃棄は悔しかった。

挑み続ける大学生

点検の徹底は必須——KWR

今度いつ来ますか?と見送られたが、毎年は難しい。地元高校生の修理ボランティアが定着できるように、車いすを送り続けたい。今回タイまで運びながら、多くの希望者を前に13台廃棄は残念。出荷前に次の3点の点検を徹底したい。

1 車輪のがたつきはダブルナットの調節を行う。車軸にグリースをたっぷり使用する。

2 キャスターは分解して、清掃をしっかりと行う。

3 ブレーキは効き重視で硬すぎる傾向にある。利用者の力を想定して、程良い調節を心がける。

「空飛ぶ車いす」青少年の活動レポート



言葉も覚えたい——FWS

タイで車いすは、「便利な動く椅子」との認識で、ゆったり目を好むようだ。そのため座幅や背もたれ等の適合が困難で、二次障害の危険性が高いと感じた。今後の目標は大きく3つ。

- 1 車いすを福祉用具として認識してもらう啓蒙活動。病院から正しい知識を広めてもらう。根気強く長い時間が必要なことは確かだ。
- 2 障害の種類、状態に応じた車いす選定力のアップ。タイで多い障害を事前学習し、基礎を固め、応用できるようにコミュニケーションする。
- 3 正確な情報把握。限られた時間と知識で適合を行うには利用者の正確な情報が必要。それには言葉覚えたい。車いす普及、良い関係を築くにも必要だと実感した。

9月1日 家庭訪問

外出できると話す笑顔が忘れられない

車いすがどんな人に届いたかが、日本の高校生の最大の関心事。これによく知るサイワルーンさんたちは今年も希望を叶えてくれた。

1日午後、事前情報を基に選定した15台を積んだバスで、心地よい風に吹かれて村に向かった。しかし村は、日本では想像もつかない高床家屋や悪路を目の当たりにして、車いすが役に立つのか？と戸惑う場面もあった。

今回、タノンサさんたちのおかげで村の暮らしと利用環境を知ることができた。車いす選定に多少の妥協もあったが、この日を何日も待っていた本人、家族、近所の人たちの感謝の言葉に疲れも吹っ飛んだ。

印象に残ったのは笑顔。教わったばかりの操作で乗り回し、外出できると笑顔がこぼれる。この貴重な体験の感動を日本の高校生に伝えることも大学の役割の一つと感じた。

①タノンサさん（56歳）は、右大腿切断、右片麻痺。健足側のフットサポートを外した車いすを片足で地面を蹴り移動していたが、片麻痺のため自走は困難。介助ブレーキ付きにしたかったが、切断端の圧迫を防ぐため大きさを優先し、介助ブレーキなしにした。上肢の筋力が弱くブレーキは軽く設定。

②タツサマリーさん（28歳）は、小さいころリハビリがでず症状が重症化。トイレまでは這って移動。外出は殆どなかった。政府補助金は月800バーツ。週1回小学校の先生が来て、国語を勉強中。脳性麻痺用ヘッドサポート付きは「大きすぎて屋内で使いづらい」とのこと。通常の介助用を選定。尖足した足をフットサポートに乗せるため長めに設定。

③ワーンさん（52歳）は、活発なおばさんで、上肢の筋力は弱いが自走可能。早速練習し、最初はぎこちなかったがすぐに上手くできた。駆動輪が後方寄りのためこぎづらそうだったが、介助用ブレーキ付きの自走用は1台だけだったので、これを選定。



ワーンさん③



タツサマリーさん②



タノンサさん①



バリヤちゃん⑤



④ウドーンさんの家の前庭



ウドーンさん④

④ウドーンさん（79歳）の家は道路まで未舗装、高床式。本人は目と耳が悪く、1人で外出や車いす移乗は難しく、家族と一緒に移乗を練習し、安全な使い方の説明した。

⑤パリヤちゃん（7歳）は、脳性麻痺と聞いて用意した車いすが大きくて合わず一旦病院へ戻り選びなおした。車いすに座ると腕を垂らすため、車輪に手を巻き込まないように膝の上に手を置くようにアドバイスした。また座位では体を前屈させるため、腰をベルトで固定した。

9月2日 適合・贈呈式

「適合」は奥深いを実感

2日10時からの贈呈式前に、家族と参加した9人にFWSは適合に挑戦。最初は、順番に家族が選んだ車いすのブレーキやレッグサポート、フットサポートの調整を始めたが、そのうちあちこちで「もっと大きい」「違う色」「工具取って」「写真撮って」など大騒ぎ状態。途中から通訳なしの手振り、身振りなどでか選定を終えた。

ここで気付いたのはブレーキの硬さを「これはどうですか?」と聞くと、本人は程度が分からず「はい」と答えがちなため、「これとこれではどちらの方がいいですか?」と聞く方が分かりやすいということだ。

選定後、お土産の東京バナナと一緒に記念撮影し、セレモニーに参加。式後は、2時間以上かけて来てくれた10団体のトラックに計50台を積み込んだ。その際、梱包材のエアークッションを捨てずに弛緩剤として再利用し、紐も搬送中の破損防止に活用した。トラックを見送って、今夏の活動を終えた。



社会福祉助成事業・アジア福祉助成事業

1 社会福祉助成事業

日社済では、地域福祉関係者の専門性向上などを目指した「研修事業」や「研究事業」、また地域社会で草の根的に取り組んでいる“先駆的事業”に一部助成することにより、豊かな福祉社会の実現に寄与することを目的に昭和59年より取り組んでいます。

助成対象事業／助成内容

	対象事業	対象経費	助成額
研修事業	A 集合研修 福祉サービスのあり方や専門的知識、技能の習得などをテーマとして開催される集合研修事業（研修会、セミナー、講演会など）	講師謝金・交通費 宿泊費・会場費 報告書作成費	助成対象項目経費 合計の80%以内 かつ50万円以内
	B 派遣研修 福祉施設職員などが幅広い視野と専門性を持つて支援業務に携わるために、他の福祉施設、団体などで一定期間実習する派遣研修事業	交通費 宿泊費 報告書作成費	
研究事業	C 実践研究 各福祉分野の先駆性ある事業の実践を通して行われる成果、課題のまとめなどの実践研究事業	実践研究事業費 調査経費 報告書作成費	
	D 調査研究 社会福祉関係者の専門性の向上、現任訓練の方法や体系、また就労、福利厚生などをテーマとする調査研究事業	調査経費 謝金・原稿料 報告書作成費	

◇ 助成案件選考方法

予備選考会（厚生労働省専門官2名） → 選考委員会（本会選考委員5名） → 理事会（本会理事7名）

◇ 助成事業選考委員

炭谷 茂 社会福祉法人恩賜財団済生会理事長
 森山 弘毅 元 株式会社協栄年金ホーム代表取締役
 大江 尚樹 元社会福祉法人東京都共同募金会常務理事
 河 幹夫 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部教授
 諏訪 徹 日本大学文理学部社会福祉学科教授

2 アジア福祉助成事業

全国社会福祉協議会は、母国の福祉の向上、福祉の国際協力パートナー養成などを目的にアジア諸国のソーシャル・ワーカーを日本に招聘し、日本語による福祉研修を33年間実施しています。日社済では、この方々が帰国後に研修成果を母国で活かして企画する福祉事業に平成9年より助成しています。

◇ 助成案件選考方法

【全国社会福祉協議会 国際社会福祉基金委員会】 → 【日本社会福祉弘済会理事会】
 （委員21名） （本会理事7名）

2017年度 助成金交付団体

1. 社会福祉助成事業 助成額 1,787万円

法人	事業名
札幌市手をつなぐ育成会	札幌市手をつなぐ育成会セミナー2018
ともに	地域・職場での心の健康を考えよう-みんなで学ぼうシリーズ拡大版
白寿会	ケアマネジメント研修会 (10回シリーズ)
認知症予防&サポート研究所アングル	社会福祉実践のためのブレイクスルーセミナー
所沢市社会福祉協議会	埼玉県西部地域社協及び福祉事業所の発展のための地域福祉人材育成事業
スマイルクラブ	障がい者スポーツ指導者のための総合的(統一)研修事業
たすけあいの会ふれあいネットまつど	地域包括ケアシステムの構築と介護・医療・ボランティアの連携を学ぶセミナー開催
桜雲会	[視覚障害者のためのあん摩マッサージ師養成セミナー～技術と接遇の向上を目指して]
東京コロニー	在宅就労セミナー「ここまで来た、在宅就労を後押しするITツール・アプリ等の活用と働くヒント」
東京都身体障害者団体連合会	障害者福祉団体リーダー養成研修
若年認知症サポートセンター	若年認知症研修の全国展開のための試行事業
日本点字技能師協会	点訳者の活動の場を拡げる研修会
介護者サポートネットワークセンター・アラジン	カフェ拠点上げコンダクターの創出事業
ソラマ	地域理解と障害者自立を高めるための勉強会
自立生活センター・昭島	障害者差別解消法を活かし、誰もが暮らしやすい地域社会の実現を考える
よみかかせボランティア藤の会	高齢者施設での絵本の出張よみかかせのための研修
日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会	アルコール健康障害対策基本法推進啓発研修
CLIP・あこーん電話相談室	心を繋ぎ心を結ぶボランティア電話相談のためのカウンセリング学習会
いのちとこころ	歌や音楽を用いたびんびんころり講座-食べられて、歩いておむつの世話にならない寝たきり予防は転倒予防、大腿骨頸部骨折予防から
神奈川工科大学車いす修理屋 (KWR)	車椅子修理&メンテナンス技術講習会
新潟医療福祉大学 Flying Wheelchair Supporters	車椅子の修理とシーティング技術講習会
明光会	障害者生活支援シンポジウム～災害時における相談支援専門員の役割は何かを考える～
静岡県社会福祉士会	スクールソーシャルワーカーの効果的な人材育成に向けた専門職団体の役割
愛知県聴覚障害者協会	盲ろう者向けIT講習会
作業療法支援ネット	作業療法支援☆ワンコインセミナー
京都難病支援パッション	第2回難治性疾患者の就労啓発講演会
ある	精神障害者の国際的な自助活動のリーダー養成研修
大阪府障害者福祉事業団	第3回大阪府障害者福祉事業団 障害福祉セミナー
大阪聴力障害者協会	発達障がいに関する学習会及びソーシャルスキル教室
大阪府ろうあ者成人学校	生まれた地域で幸せに働く応援事業「ぶれワーキング」勉強会
介護保険市民オンブズマン機構大阪	認知症の人々が安心して暮らせる施設にするために～認知症ケアと環境支援を考える～
兵庫県聴覚障害者協会	職員及び登録介護職員の技術・知識向上の為の研修
日本ファミリーホーム協議会	第12回ファミリーホーム全国研究大会 in OSAKA DREAMS COME TRUE ～みんなで描こう未来予想図～
播磨オレンジパートナー	西播磨認知症ケア実践研修
宝塚高次脳機能障害者共生の会	高次脳機能障がいに関する講演会
元氣・百歳	健康長寿の科学的解明をテーマとする講演会
なんとカンファレンス実行委員会	なんとカンファレンス2017
広島県社会福祉士会	対人援助者のためのスキルアップ研修(連続研修)
尾道厚生会	DVの影響を受けた母子たちへの支援事業
城南健康ふれあい倶楽部	認知症カフェ支援者育成研修と認知症介護者の集合研修
昌平養	養育の質を確保する専門性と人材育成
日本チャリティ協会	パラアート国際交流事業
日本車椅子シーティング協会	タイの重度肢体不自由児向け強化段ボール座位保持椅子の研究開発および実証試験
東京社会福祉士会	障害のある罪を犯した人の、判決後の社会復帰に関する福祉的支援事業
ハートフルママ(次世代育成応援団)	赤ちゃんと小・中・高校生とのふれあい交流
長野県知的障害者育成会	障害者施設での利用者と職員の自信獲得プログラム開発
静岡FIDサッカー連盟	アジアにおける知的障がい者スポーツ普及事業
レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク	当事者から捉えるひきこもり回復後における就労定着促進事業

2. アジア福祉助成事業 助成額 145万円

国	所属	事業名
フィリピン	Center for Ignacian Formation and Community Ministries	地域(開発)プログラムを通じた住民参加促進 リーダーシップ研修、生業訓練、環境教育、ゴミ処理研修、防災セミナーなどの各種セミナーや研修を通して地域の人の暮らしを向上させるような地域(開発)プログラムを実施する。
タイ	"Sharing-Love Family" Group	居宅ヘルスクアの推進 高齢者のいる家族に向けた居宅ヘルスクアマネジメントの実施およびそれに係るボランティアの養成。
マレーシア	Persatuan Perkhidmatan komuniti Taiping(ESDA)	学習開発センターの再開発事業 厳しい状況下にある子どもたちおよび貧困問題を抱える彼らの親たちに対し、コンピュータに係る知識教育を提供する。
インドネシア	Kesuma Foundation	サクラプロジェクト 子どもたちへの暴力防止セッションの実施、暴力を受けた子どもたちへの支援、女性のエンパワメント。
インドネシア	Yayasan Usaha Mulia	高齢者向け地域保健所(ヘルスポスト) 65才以上の高齢者を対象に、健康に係る知識の向上をはかるとともに栄養状況を良くし、ライフスタイルを向上させる。

いつでも、誰でも「はがき1枚」から参加できる ボランティア活動。

—「書き損じはがき」の収集にご協力をお願いします—

「空飛ぶ車いす」は、日本で使われなくなった車いすを
日本の工業高校生が修理・再生して
アジアに贈るボランティア活動です。



「空飛ぶ車いす」は、
多くのボランティアに支えられています。

はがき収集 ボランティア

全国の「はがき収集ボランティア」から届けられた「書き損じはがき」を切手に交換し、さらに企業等の協力により切手を現金化して“パンクしないタイヤの購入費用”や“工業高校から国際空港までの車いす輸送費用”に充てています。

修理 ボランティア

工業高校のクラブ活動や有志、生徒会などで車いすの修理を行います。

輸送 ボランティア

ビジネスや観光などでアジア各国を訪問する際に、搭乗機手荷物として運びます。

ご寄付をいただいた皆さま

(平成28年1月～12月)

数ある団体の中から当会の趣旨に賛同いただきご寄付を賜りました皆さまに
感謝申し上げます。温かいご支援ありがとうございました。

(敬称略・順不同)

NPO法人ワーカーズ・コレクティブたすけあい せや
秋田県立湯沢翔北高等学校生徒会
阿見町社会福祉協議会
荒川区役所地域文化スポーツ部生涯学習課
市村 キヨ
伊藤 満男
岩手県社会福祉協議会
大星 社
奥出雲町社会福祉協議会
片山 幸子
鹿屋市立大始良中学校
神栖市社会福祉協議会

川角 昌一
協栄年金ホーム
佐藤 卓美
ジブラルタ生命保険株式会社
鈴木 真由美
竹谷 尚人
高野 毅
剣建築設計事務所
兵庫県立東播工業高等学校
栃木市社会福祉協議会 岩舟支所
豊明市社会福祉協議会 ボランティアセンター
富田林市社会福祉協議会

中瀬 清美
新居浜市ボランティア・市民活動センター
八丈町社会福祉協議会
兵庫県立相生産業高等学校
福島 宗一郎
美浜町ボランティアセンター
三菱総研DCS株式会社
六戸町社会福祉協議会
社会福祉法人明光会
盛岡医療福祉専門学校

お問い合わせ・
はがき送付先

公益財団法人
日本社会福祉弘済会

〒130-0022 東京都墨田区江東橋4-24-3
URL ▶ <http://www.nisshasai.jp/soratobu/index.html>
TEL.03-3846-2172 FAX.03-3846-2185

お客さまの生涯を見つめる ジブラルタ生命



生涯を通じて必要な資金を一緒に考えてみませんか？

「9+1の安心」

- ① 毎月の生活資金
- ② 教育資金
- ③ 結婚資金
- ④ 住宅資金
- ⑤ 死後の整理資金
- ⑥ 緊急予備資金
- ⑦ 相続対策資金
- ⑧ 長期療養資金
- ⑨ 親の生活・介護資金
- + ① 老後の生活資金

ジブラルタ生命のライフプラン・コンサルタントは、お客様それぞれの状況に応じて、保険によって備えておくべき経済的なリスクを「9+1」の資金に分類し、万一の死亡や不測の入院などに際しても、ご家族が困ることの無いよう最適なプランのご提案を行っています。
詳しくは当社のライフプラン・コンサルタントにご相談ください。

ジブラルタ生命は、日本社会福祉弘済会が実施する「福祉の共済」取扱会社です。

ジブラルタ生命保険株式会社

本社 / 〒100-8953 東京都千代田区永田町2-13-10

ジブラルタ生命のホームページ

<http://www.gib-life.co.jp/>

ミナ ジブ ロック
コールセンター 0120-37-2269

(通話料無料) ※携帯電話、PHSからご利用になれます。



Gibraltar
ジブラルタ生命



くっきり! 福祉の未来形

ニッ シャ サイ 日社済の 主な事業



社会福祉助成事業

公募による社会福祉関係者の研修・研究事業等への助成を行っています。



アジア福祉助成事業

全国社会福祉協議会と連携した福祉の国際協力パートナーの養成と、その活動の支援・助成を行っています。



空飛ぶ車いす支援事業

アジア等の障害をもつ方々への車いす修繕・寄贈を支援しています。



社会福祉関係者の共済に関わる事業

福祉関係者の福利向上のために提携会社を通じて団体扱生命保険を提供しています。

